

2024
1-3月期



京都企業の
BSI値
Business survey index

国内景気は堅調に推移する一方、長期化する人手不足やコスト高で自社業況は下降

実績

国内景気

インバウンドによる消費の継続や個人消費のさらなる回復が期待され、BSI値は4期連続で上昇

自社業況

需要回復による人手不足やコスト高の継続で減収減益傾向となり、BSI値は下降に転じる

予想

国内景気

4～6月期に大幅に上昇し、7～9月期にも上昇が継続する見通し

自社業況

業種によって回復スピードに差はあるものの、全体として今後は7～9月期にかけて上昇を見込む

規模別の業況

国内景気・自社業況ともにBSI値は大企業で上昇する一方、中小企業では下降に転じる。来期以降、国内景気BSIは規模を問わず上昇傾向で推移する一方、自社業況BSIは大企業では上昇が継続し、中小企業ではやや弱含みで推移する見通し。

1 概要

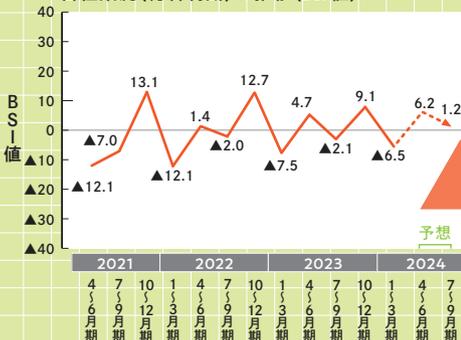
今期の国内景気BSI値は3.4(前期実績10.9)と幾分上昇し、4期連続での上昇となった。インバウンドによる消費の継続に加え、個人消費のさらなる回復が期待されて大企業を中心に上昇し、1～3月期としては6年ぶりの上昇となった。今後の予想については、4～6月期は11.9と、運輸・倉庫業をはじめとした全ての業種で上昇し、続く7～9月期も7.2と、ほとんどの業種で上昇が続く見込み。

国内景気BSI値
(前期実績 10.9)

3.4



自社業況(総合判断)の推移 (BSI値)



6.5
自社業況BSI値
(前期実績 9.1)

今期の自社業況BSI値は▲6.5(前期実績9.1)と下降に転じた。急速な需要回復による人手不足や、原材(燃)料価格の高止まり・人件費の高騰等によるマイナスの影響もあり、中小企業を中心に多くの業種で減収減益傾向となった。

今後の予想については、業種によって回復スピードに差はあるものの全体としては4～6月期は6.2と上昇に転じ、7～9月期も1.2と、上昇が続く見通し。

2 BSI値の総括表

(注)1～3月期のBSI値は、2023年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

		実績		予想	
		2023年10～12月期	2024年1～3月期	2024年4～6月期	2024年7～9月期
京都企業の経営動向	国内景気動向	10.9	3.4	11.9	7.2
	自社業況(総合判断)	9.1	▲6.5	6.2	1.2
	1. 生産・売上高、工事施工高	12.8	▲8.4	4.9	0.1
	2. 製・商品・サービス・請負価格	11.9	8.9	13.2	8.5
	3. 経常利益	4.4	▲10.8	▲0.7	▲0.7
	4. 所定外労働時間	9.1	▲3.0	1.2	0.0
	5. 製・商品在庫	7.1	8.8	5.8	4.0
6. 資金繰り	0.5	▲3.4	2.1	▲0.6	

(注)BSI値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

3 当面の経営上の問題点



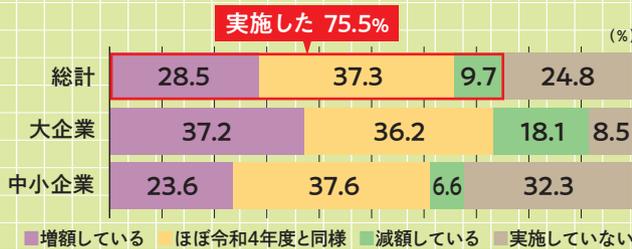
第1位は「原材(燃)料高」(48.7%)、第2位は「求人難」(41.7%)、第3位は「受注・売上不振」(35.9%)、第4位は「人件費負担増大」(29.4%)、第5位は「技能労働者不足」(17.5%)であった。

4 附帯調査 —ピックアップポイント—

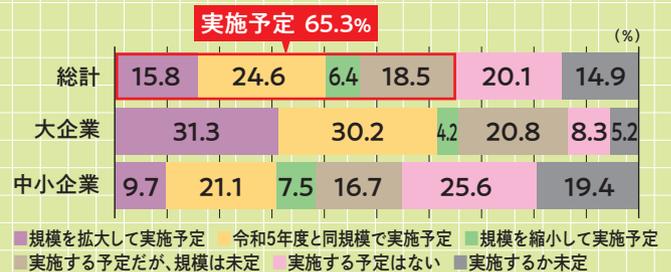
※少数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません。

設備投資計画について ▶ 令和5年度設備投資を実施した企業は75.5%と微増
令和6年度の設備投資については規模間で差がみられる

1 令和4年度と比較した令和5年度の設備投資の実績



2 令和5年度と比較した令和6年度の設備投資の計画



3 設備投資の目的

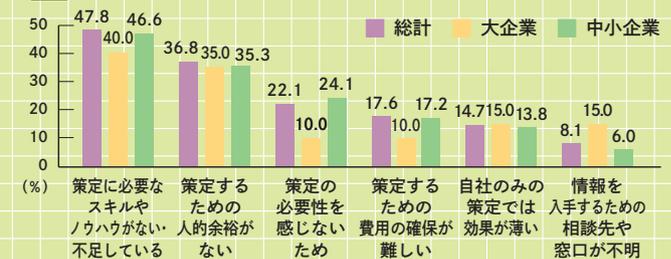


事業継続計画(BCP)について ▶ およそ3分の1の企業がBCPを策定済み策定ノウハウの不足や人員の確保が課題

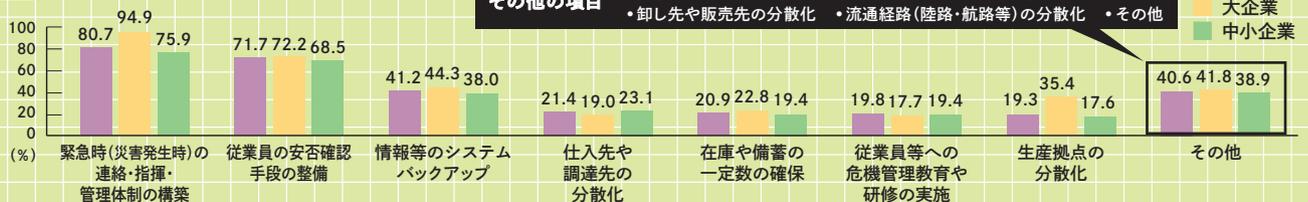
1 BCPの策定状況について



2 策定していない理由



3 策定した(策定中の)BCPの内容



京都企業のBSI値：2月中旬から3月上旬にかけて同調査を実施し、506社中343社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店等を持つ企業)。

【お問い合わせ】 中小企業支援部 ☎075-341-9780 調査結果概要は本所ホームページからダウンロードできます。 京都商工会議所 BSI値 検索